

## 三重津海軍所跡のモニタリングについて (案)

### 1. 目的

遺構の保存状況（地下水の状況）を把握・解析し、その結果を「屋外展示」整備の排水計画に反映させることで、将来に渡る地下遺構の保存をより適切なものとする。

### 2. モニタリングの方法

#### (1) 観測項目

- ・地下水位
- ・酸化還元電位

#### (2) 観測井設置場所および設置方法

- ・ドライドック中央部付近（位置図：裏面）で深さ 5m 程度のボーリングを行い、塩ビ管（VP150）を埋設する。

#### (3) 観測機器の選定

- ・河川敷内であり、大潮や大雨の時などに設置した機器が水没する可能性があるため、使用する機器や設備は比較的簡易なものが望ましい。

#### (4) 観測方法

- ・観測井内に水位計・水質計を設置し、自動計測による観測を行う。
- ・毎月 1 回、観測データの引き上げおよび観測機器の点検を行う。

⇒現時点では、三重津海軍所跡の地下水位や酸化還元電位の状況について、基準となる数値を持ち合わせていない。まずは、データの蓄積を行うことから始め、その後データの解析を行い、基準となる数値を定めることで、三重津海軍所跡にとって最適なモニタリング方法を確立させていく。

### 3. スケジュール（予定）

#### (1) 令和元年度

- ・関係機関との協議・許可手続き（上半期）
- ・観測井設置、モニタリング開始（下半期）

#### (2) 令和 2 年度

- ・モニタリング（通年）

#### (3) 令和 3 年度

- ・モニタリング（通年）
- ・令和元年および令和 2 年の観測データの解析（上半期）
- ・ガイダンス施設での展示に観測データを活用（下半期）

※令和 4 年度以降の観測方法等は、解析結果を基に、今津委員の指導・助言のもと決定していきたい。

#### (4) 令和 4 年度以降

- ・モニタリング継続
- ・ガイダンス施設での展示に観測データを活用



断面模式図

